●評価項目
簡易な施工計画／施工管理／作業の効率化
評価指標
現場作業などの効率化に寄与できる具体的提案について判定方式で評価。（※４）
（提案が無い場合は「無し」と記載）
提案は１項目とする。
※１　求める製品保証の内容
・下記保証対象外の事由以外による故障や損傷の交換部品の費用を含めた一切の修理費用
●保証対象外
・使用上の誤り、製品及び製品の取扱説明書等に記載された取扱い方法及び注意事項に反する取扱いによって生じた故障や損傷
・製品の改造や指定品以外の部品の使用に関連した故障や損傷
・他の機器に起因して受けた故障や損傷
・偶然かつ外的要因（物体の衝突、落下、衝撃、倒壊、圧力等の負荷、液体・薬品等の付着、水没など）により生じた故障や損傷
・火災、地震、風水害、落雷、津波、その他天災地変、塩害、公害、異常電圧などによる故障や損傷
・契約図書に記載された動作条件の範囲外での使用による故障や損傷
・消耗品・付属品の交換、有寿命部品で使用環境により保証期間中に寿命に達したと明らかに認められる場合
・各部の通常の使用による汚れ
・故障や損傷に起因して、また、故障や損傷の修理の際に、道路交通の安全の確保のためＮＥＸＣＯが自ら実施した調査、応急復旧、機能の補完対応、監視などの費用
※２　保守部品の供給保証期間は、本工事がしゅん功（完了）認定された日から５年間を標準とする。
※３　技術資料作成要領に示す【提案における制限】を超える提案には、本小項目の全提案に対し点数を付与しない。なお、技術提案書の枚数は、提案数に係わらず説明図面及び写真等を含み項目ごとにＡ４版片面２枚以内（機器等の維持管理性向上は全体で６枚以内、機器の品質向上に向けた創意工夫は２枚以内、簡易な施工計画は２枚以内）とし、規定枚数を超えた場合は全て不可とする。提案は、１施工技術を用いた内容で１提案とするが、複数提案を組み合わせなければ効果を発揮できないなど、一体不可分の内容となっていると発注者が判断したものは、１提案とみなす。ただし、提案を組み合わせることにより、より効果が発揮される場合であっても、複数提案と発注者が判断したものは、不可とする。以下の例のような提案は複数提案とみなし、全て不可とする。
【複数提案とみなす例】
技術提案：○○による作業の効率化
実施方法等：●●を設置する。
▲▲を実施する。
■■を配置する。
（それぞれが独立した施工内容で、一体不可分でなく、１提案内に複数提案がある場合は不可とする。）
※４　提案による効果として作業日数や人工など、定量的な数値を参考値として示し、根拠を記述する。
提出された技術提案について、発注者が以下に該当すると判断した場合は不可とする。
・技術提案が求めた内容に合致していない。又は、提案内容が不適切である。
・技術提案の実施に際して第三者協議が必要となる場合
・技術提案の実施に過度に費用がかかる場合
・納入後の機器に対する定期点検の通知や実施のような受注者の保守体制や管理体制に基づく提案である場合
提出された技術提案について、発注者が以下に該当すると判断した場合は減点とする。
・技術提案が明らかに設計図書で定められている事項に反する場合、または設計図書で定められている事項と同じ内容を技術提案としている場合
提出された技術提案について、発注者が以下に該当すると判断した場合は不適格とする。
・明らかに本工事を対象としていない提案を記載した場合
・提出された簡易な施工計画に関する技術提案書が、他の入札参加希望者が提出した技術提案書と全く同一である場合
【判定方式】
評価項目の項目別配点は、評価指標により優／良／可／不可（不採用）／減点（不採用）又は有／無を判定し、判定結果に応じて点数を付与する。
【数値方式】
評価項目の項目別配点は、評価数値により算出する。あらかじめ指定する最高の評価数値を満点、最低の数値又は評価に値しないものを０点とし、評価数値に応じ按分した点数を付与する。
評価指標について
優：技術提案が適切であり、優れた工夫がみられる。
良：技術提案が適切であり、工夫がみられる。
可：技術提案は適切であるが、「優・良」に該当しない。
不可（不採用）：技術提案が求めた内容に合致していない、若しくは提案内容が不適切である。
減点（不採用）：明らかに設計図書で定められている事項に反する場合、又は設計図書で定められている事項と同じ内容の提案である。
⑶　評価点の付与方法
ア）企業の評価について
・企業の施工実績
技術評価点　有20点・無０点
総合評価点算出用（α：0.2）有４点・無０点
イ）技術提案の評価について
・保証条件等
設計図書に示す標準案に対して、最高の評価数値を提案した者を10点、標準値を０点とし、その他の提案については、提案値に応じ按分した点数（小数第３位を四捨五入し小数第２位とする）を付与する。
総合評価点算出用（α：0.2）最高２点～標準０点
・保守体制
設計図書に示す標準案に対して、最高の評価数値を提案した者を10点、標準値を０点とし、その他の提案については、提案値に応じ按分した点数（小数第３位を四捨五入し小数第２位とする）を付与する。
総合評価点算出用（α：0.2）最高２点～標準０点
・機器等の維持管理性向上
評価者が評価基準（優／良／可／不可（不採用）／減点（不採用））に基づき判定した下記の項目別配点の平均点で評価し付与する。
優30点、良15点、可０点、不可（不採用０点）、減点（不採用－7.5点）
総合評価点算出用（α：0.2）優６点、良３点、可０点、不可０点、減点－1.5点
・品質管理・品質向上の創意工夫
評価者が評価基準（優／良／可／不可（不採用）／減点（不採用））に基づき判定した評価に対し、下記の配点を付与する。
優20点、良10点、可０点、不可（不採用０点）、減点（不採用－５点）
総合評価点算出用（α：0.2）優４点、良２点、可０点、不可０点、減点－１点
・施工管理
評価者が評価基準（優／良／可／不可（不採用）／減点（不採用））に基づき判定した評価に対し、下記の配点を付与する。
優10点、良５点、可０点、不可（不採用０点）、減点（不採用－2.5点）
総合評価点算出用（α：0.2）優２点、良１点、可０点、不可０点、減点－0.5点